

特集 | 続ける

「持続可能性」という言葉が、世に問われてから久しく、国連サミットでSDGsが採択されてから10年目を迎えようとしている中、様々な場面で持続可能な社会の構築に関わる取組みがなされてきています。しかし、これらの取組みが必ずしも十分に浸透しているとはいえず、より実効性のある「続ける」ための方策が必要とされているところです。

「続ける」という言葉は、「続く」とは異なり、人がある行動を意図的に途切れないように保つ、あるいは繰り返すという意味合いを持ち、それは様々な言葉と結びついて、どちらかといえばポジティブな意味で多く使われています。

例えば、住み続ける、使い続ける、変化し続ける、進化し続ける、集い続ける、働き続けるといった「続ける」と結びついた言葉は、団地再生などの住環境資源の新たな再価値化、歴史的な時間の蓄積のある建物の保存再生、未来を見据えた魅力ある都市環境整備、空き家問題解消による地方創生への取組みなどのポジティブな活動とつながります。

これらの取組みの背景には、未来につなげていこうとする人々の意思や、裏支えとなる制度・技術等の仕組みがあります。そして、これらの取組みは、持続可能な社会の実現に向けた「まちづくり」や「住まいづくり」を実践する上で大きなヒントになるのではないのでしょうか。

そこで、本号では、「続ける」という言葉をキーワードに、「まちづくり」や「住まいづくり」を中心に、専門家や実践者の立場から、様々な取組みや話題についてご紹介いただきます。